

施策評価シート(平成21年度の振り返り、総括)

作成日	平成	22	年	6	月	24	日
-----	----	----	---	---	---	----	---

施策No.	34	施策名	生涯学習の推進		
主管課名	教育課	主管課長名	青木 寿		
関係課名	総合政策課(企画振興G)				

施策の目的 【対象】	①町民 ②成人の町民	対象指標名	単位	18年度 実績	19年度 実績	20年度 実績	21年度 実績	22年度 見込み	23年度 見込み
		①人口	人	24,250	23,809	23,305	22,924	22,591	
		②成人の人口	人	19,502	19,161	18,981	18,805		

施策の目的 【意図】	①【生きがい】として生涯学習をしてもらう ②テーマ(目的)をもって生涯学習をしてもらう。 ※生涯スポーツは別施策	成果指標名	単位	18年度 実績	19年度 実績	20年度 実績	21年度 実績	22年度 目標	23年度 目標
		①日頃から学習活動を行っている町民の割合	%			35.0	34.1		
		②公民館施設の利用者数	人	13,040	17,629	18,510	18,900		
		③カルチャーセンターの利用者数	人	15,623	24,087	29,146	27,004		
		④図書の貸し出し者数	人	6,189	6,559	6,800	6,709		
成果指標の 把握方法と 算定式等	①町民アンケートで把握 ②～④→実数を把握 ※公民館とは、中央・水上・新治								

成果指標設定の考え方	①生涯学習の推進を図り、町民が心豊かな文化人となることが求められている。そのため、日頃から学習活動に取り組んでいる町民の割合の増減を成果指標とした。 ②～④の指数については、増加することで生涯学習の推進に結びつくと考える。
------------	--

施策成果向上にむけた住民と行政との役割分担	1) 住民の役割 (住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと) ①自主的に生涯学習をする姿勢を持ち、啓発活動をしてもらう。 ②自らが学び、自らが指導者を目指し、後継者育成を行いその分野の発展に寄与してもらう。 ③文化活動団体の活動に積極的に参加してもらう。 2) 行政の役割 (町がやるべきこと、都道府県がやるべきこと、国がやるべきこと) <町> ①町民が適時に学習できるように生涯学習に係る情報の提供を行う。 ②文化活動のPR活動(町のイベント・他団体が実施するイベント等への後援) ③文化活動団体への人的・金銭的支援 ④学習活動の場と学習機会の提供 ⑤環境の整備(施設・蔵書など) <県> ①まなびネット群馬による生涯学習に係る情報の提供 ②文化振興に対する団体への助成
21年度の 評価結果	1. 施策の成果水準とその背景・要因 1) 現状の成果水準と時系列比較 (現状の水準は？以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は？) ①日頃から生涯学習を「している」「どちらかといえばしている」の数値を合わせて、35%という数値は、十分なものとは言えず、町民一人ひとりが自ら生涯学習に取り組もうとする意識を高める必要がある。 ②学習活動を行っている者の高齢化によりこの学習活動割合数値を維持していくことも容易ではない状況。 2) 他団体との比較 (近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は？) 旧町村によって温度差はあったが、合併後、活動の進んでいた地域から影響を受けて、町全体として取組はよい方向に向かっている。 3) 住民の期待水準との比較 (住民の期待よりも高い水準なのか、同程度なのか、低いのか)、その他の特徴は？ 住民の期待水準は高く、現状の状況が水準に見合っていないと感じている住民は多い。手軽に学びたいという声があり、公民館講座の再開を希望する声がある。 2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み(事務事業)の総括 合併後、旧町村間での取組について情報交換する機会がもたれるようになったことにより、町全体として、生涯学習事業の推進は活性化・向上してきている。特に「講座を受けた後に自主運営できる団体が増えてきた」などの成果が見られた反面、「各種教室の数を増やすこと、活動内容の充実を図ること」などが課題として残った。 3. 施策の課題認識と改革改善の方向 若年層や中高年に生きがいを持って文化活動をしてもらう。特に男性が興味を持てる内容のプログラムを検討する。婦人活動促進のために若い婦人も興味を持てるプログラムを検討する。企画、立案、運営する機能を行政側ですべて持つことで事業数に限界が生じてしまうため、学習者側(町民)が教室運営にどのように関わっていけるかなど、幅広い事業展開を図っていかないとニーズに対応しきれなくなっている。